

1 人ひとり違うという意識

「認知症を知り 地域をつくる」キャンペーン報告会開催

2008 年 3 月 1 日(土)、本年度で 3 年目を迎える「認知症を知り 地域をつくる」キャンペーン報告会が認知症になっても安心して暮らせる町づくり 100 人会議の主催により全社協・灘尾ホール(東京都千代田区)において開催された。

堀田力((財)さわやか福祉財団理事長)氏による開会挨拶後行なわれたのは、第 1 部『第 4 回認知症になっても安心して暮らせる町づくり 100 人会議』。認知症のご本人とご家族からのメッセージでは、「できないこともあるけれどできることもあります。できる時とで

きない時もあるし、また 1 人ひとり違うということを知ってほしい」という思いや、「1 人でうろろろしていたら声をかけてほしい」という同じ町に暮らす人々のちょっとした手助けを求める声があった。

続いて行なわれた座談会「動き出そうそれぞれの立場で、今！」。キャラバンメイトとして認知症サポーターの養成に努めている安岡厚子(NPO 法人サポートハウス年輪理事長)氏は、今後は養成を学校教育の場にも組み込み、「市民の心を耕していく」ことの可能性を語った。安岡氏の「認知症サポーター養成講座」を受けた東京都立拝島高等学校の生徒も登壇し、サポーターとしての学びを語ったが「将来介護士になりたいです」という発言には場内から大きな拍手が送られた。

第 2 部は『「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン 2007 発表会』。8 点の「町づくり 2007」モデルが長谷川和夫(「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン 2007 実行委員長)氏より表彰され、各団体により、発表の時間が不足するほど熱心な発表がなされた。

最後に堀田氏が「認知症の人を支えることは人間が 1 人ひとり異なることを認めていくということ。それがひいては画一的な教育を受ける子ども、管理者に労働力として管理される労働者を支え、もっと幸せな社会をつくり出すことになる」と述べ、終了を迎えた。

